

令和4年度 関東木材資源リサイクル協会 全体会議議事録

開催日時 : 令和4年12月16日(金) 15:00~16:25
会場 : 江東区立森下文化センター A・Vホール
総会員数 : 正会員75社、賛助会員10社、物流会員12社
出席 : 48名
正会員23社36名、物流会員1社2名、需要者部会1社1団体3名
事務局員等6名、プレス1名

議事内容

司会 石出 信二
(専務理事)

1. 会長挨拶

- ◆ 師走の大変お忙しい中、関東木リ協の全体会議に出席くださり、ありがとうございます。このところ、やっと皆さんと対面でお会いすることができるようになりました。ありがたいことだと思います。過日は、連合会の木質資源安定供給検討会があったが、今日はその会合にも出席くださった方も多くいてありがとうございました。四省庁の方々も参加してくださり、有意義な時間が過ごせたと思っています。
- ◆ 今日は、令和4年度の上半期の活動報告で各委員会・部会の活動報告であったり、また我々が積極的に進めている「適合チップ認定制度」の見直しの経過発表であったり、またDXの推進の途中経過等も、お話させていただきます。
- ◆ すでにご案内のことと思いますが、国土交通省さんから建設業界に向けて、建設現場における脱炭素化技術の事例のアンケート調査が発信されています。いよいよ建設現場のカーボンニュートラルが表に出てきたと強く感じています。我々もサプライチェーンの一つとして、廃棄物の処理も建設現場における脱炭素化技術の一つに取り込まれています。
- ◆ 詳しくは、国土交通省のホームページに掲載されています。そういったニーズに我々も応えながら、日々の業務を進めていかないといけない。
- ◆ 皆さん方の声を聞いていると、木質チップの発生量が大変弱いところもあるが、こういった中で我々の大切な、また会員でもある需要家さんの要望を満たす活動をしていかないといけない。工夫を凝らしながら品質を守りながら、やっていかないといけないので、協力し合いながらやっていきたい。
- ◆ 今日はいろいろな報告事項がずらっと並ぶが、時間まで聞いていただいて、忌憚のない意見を頂きたい。

以下、議事進行は、藤枝会長

2. 協会活動報告

以下、石出専務理事より、資料に基づき報告

(1) 令和4年度事業活動中間報告

- ◆ 通常総会は5月26日（木）に開催した。
- ◆ 理事会は2回開催、第1回は総会に向けての協議、第2回は各委員会・部会等の開催状況の報告を中心に行った。
- ◆ 企画財政委員会は、2回開催。
適合チップ認定の更新に向けて、状況報告を行うとともに、今後のスケジュール等を協議、決定した。また、先進事例の視察先の決定、DX推進に向けた実証試験についての協力要請、連合会からの調査報告等、加えて、広域認定制度により型枠の収集に影響がでているとの情報提供があり、情報交換を行った。
- ◆ 需要者部会は、適合チップ認定ガイドラインの修正点についての協議を行うとともに、事務局より物流調査報告、関東地区燃料チップ需給バランス予測についての報告、さらには、物流部会会員が抱えている危機感と要望事項が披露された。
- ◆ 物流部会では、残業時間の上限が960時間になる2024年に向けての、意見交換が行われた。また、1運行いくらという基準作成に向け、ワーキンググループを設置したとの報告があった。
- ◆ 地区委員会の開催状況と開催内容について、報告があった。
- ◆ JRE神栖バイオマス発電所の視察報告があった。

(2) 令和4年度予算執行状況中間報告

- ◆ 令和4年4月1日～9月30日の予算執行状況の報告があった。
- ◆ この間の収入は、21,275,351円。支出は5,349,508円、共販事業収益は分析調査委託料の還元金、物流関係事業は物流伝票の売上金、雑入は、旧事務所の保証金返還金、事務所賃借料は、引越代を含む。図書印刷費のマイナスは、当初予定になかった「物流伝票」を印刷したためである。物流伝票は実費で希望された物流会員に配布した。

(3) 令和4年度入出荷実績中間報告

- ◆ 最近の木質チップの需給状況から、会員数は増加しているが、平成31年度～令和3年度の3年度を比較すると、入荷量は令和2年度は落ち込み、令和3年度で回復したが、平成31年度の数量には達していない。
- ◆ 令和3年度と令和4年度の4月～9月の入荷量はほぼ同じだが、令和4年度の入荷量は令和3年度の入荷量の98.6%になる。
- ◆ 33社の同数比較では、例年、5月、9月は入荷量が落ち込むが、令和2年度と令和3年度の入荷量はほぼ同量なのに対し、令和4年度は令和2年度、令和3年度に比べて、5月の落ち込みが1万トンと大きい。4月から9月を比較すると、令和2年度を100とすると、令和3年度は98.7、令和4年度は98.1になる。

(4) 令和4年度地区委員会別入出荷量中間報告

- ◆ 地区委員会別入荷量については、これまで試行的に作成し、毎月、報告書を提

出していただいた会員や、地区委員会で報告してきたが、今回、全数でのデータに基づき作成した。今後も、総会や全体会議で報告していきたい。

3. 適合チップ認定の更新について

以下、石出専務理事より、資料に基づき報告

- ◆ より良い適合チップ認定制度の構築を目指し検討を重ね、認定の更新時期に合わせて、ガイドラインの達成度チェック表の改定を行った。
- ◆ 設備の新設には、相当の時間がかかる場合もあるので、令和4年2月に、その時点での最新のチェック表の改定内容を、チップメーカー、チップユーザーにお知らせした。
- ◆ チェック表改定内容の大きな点は、17項目の必須項目を設けたことにある。必須項目をクリアしていないと、認定申請はできない。
- ◆ その他、文言の修正、項目名の変更を行った。
- ◆ スケジュールは、来年1月初旬に書類を送付し、2月10日で締め切り、3月下旬に、認定の可否を通知する。

藤枝会長から、補足が求められ、次の発言があった。

古敷谷企画財政委員長

- ◆ フルイと磁選機は必須になるので、これらがついていないと、申請できないことになる。

福島需要者部会長

- ◆ ボイラーがトラブルを起こさないものを入れていただくために、このような認定制度を通った事業者を優先して量を確認する取り組みが必要と考えているが、現状、量は大変厳しい状況なので、いろいろな方と相談しながらやっていきたい。

藤枝会長

- ◆ せっかくできた制度なので、有用なものにしていかないといけない。コロナ禍で現地確認が難しくて順調に進んだというわけではないが、ここで見直しをかけて、よりよい制度にしていきたいので、よろしくお願ひしたい。
- ◆ 後ほど、連合会のほうから調査報告があると思うが、徐々に品質が改善されて数字的に見えてくるところもあるが、さらに良いものをつくっていかないといけない。ぜひご理解をいただきたい。
- ◆ フルイとか磁選機は、産廃処理施設と言うことで許認可の問題も抱えているので、引き続き環境省に対しても、こういった品質を上げるとか、省エネに寄与する施設については、迅速な許認可を継続的にお願いしたいと思っている。ご理解をお願いしたい。

4. DX 推進の取り組み

榎グリーン 北井氏より、資料に基づき報告

実証試験に興味のある方、別途質問のある方は、Google フォームからも受け付ける

という説明があった。(締切、12月23日)

藤枝会長

- ◆ 一連の廃棄物の処理だけでは、お客様のニーズに応えられなくなる。プライム市場の企業は、CO2の排出について公にしないといけないことになっている。削減計画もださないといけない。中小企業もサプライチェーンの一つとして、そのような要求が必ずくる。それに向けて、活用できるツールを早めに作っておこうということで、当社とCO2の計算とか削減に向けての国際的な認証登録とかで、日本で一番数をこなしているカーボンフリーコンサルティングとが共同で開発を進めている。
- ◆ ハウスメーカーとかゼネコンとか、必ずこの要求はしてくる。そのときに何のことですかと言っているようだと、お客さんをなくすことになる。今から準備をしないといけない。
- ◆ 1996年にISOの14001が決められた。その時はISOの14001をとらないと契約しませんよと、みんな言われたはずだ。全く同じような風が、今、吹いている。CO2の排出量の準備はやっておいて間違いがない。必ず要求されるようになる。用意をしておかないと取り残される。それで、関東協会としてはこの事業を進めていこうということになった。ほぼ開発が終わったので、年明けからはそれを運用して、実証実験をやるので、皆さん方のご協力をお願いしたい。
- ◆ 実際につかってみて、使い勝手がどうなのかを4か月間位かけて実証していく。
- ◆ 物流部会の皆さんも、大手がオーダーしてくるものは、必ず今後CO2の報告を願いたいとか、場合によっては、EV化を検討してくれとかの話が必ずでてくる。よくよく考えて、皆さん、積極的に参加してもらいたい。

5. NPO 法人全国木材資源リサイクル協会連合会より報告

以下、原専務理事より、資料に基づき報告

(1) 令和4年度木質バイオマス需要調査結果

(2) 令和4年度生産会員実態調査結果

(3) カーボンニュートラルWG 中間報告

(4) エコプロ2022の報告

6. その他

- ◆ 事務局より、会社の所在地等の変更があった場合には、お知らせ願いたい。また、一つの会社で連絡先が多数あり、異動等で使われなくなった連絡先もあると考えられるので、別途、調査し確認を今後したい。
- ◆ 地区委員会より、昨今の状況について、報告があった。

(文責) 石出